# デジタルバンキングへの取組み

当行では、こうしたデジタル化技術は金融機関に大きなチャンスや可能性をもたらすと考え、業務革新による「業務の効率化」とともに「新たな付加価値の創出」や「お客さまの利便性向上」に取組んでいます。さらに新中期経営計画では、デジタルと店頭相対（フィジカル）との効果的なミックス（デジカル戦略）を推進します。

## 業務効率化の取組み

### 会議資料のペーパーレス化とテレビ会議システムの導入

当行では、取締役会や常務会など、経営にかかわる書類は 2015 年から電子システムに置き換えています。資料閲覧にはタブレットを用いて、インターネット経由でタイムリーに閲覧もでき、車中でも、海外出張中でも重要案件に対応し、ペーパー資料の大量削減を実現しています。

また、業務支援のツールとして、タブレットを全店配付し、積極的に活用するとともに、必要な時に必要なメンバーだけを集めたテレビ会議を行っています。東京でも、海外拠点でも、相手の顔を見ながら会議を行い、迅速で効率的な業務運営を実現しています。

イメージ

### BPR（ビジネス・プロセス・リエンジニアリング）の取組み

BPR は、既存業務の内容や業務フロー、組織構造、規則等を全面的に見直し、再設計することをいいます。

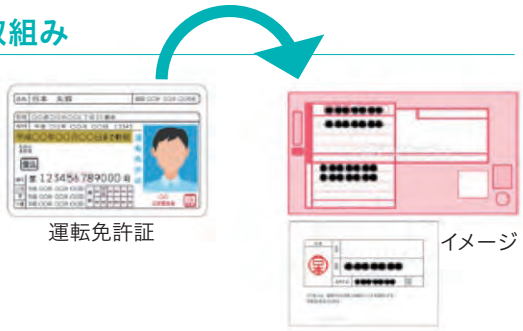
当行では、特に営業係の事務を極力削減し、営業推進を強化することを目的として、事務の見直し、システム開発、端末の入替などを実施しました。例えば、初めて普通預金口座を作るお客さまの場合、法令対応もあり、本人確認や反社会的勢力関連書類など、必要となる書類は 10 枚を超えますが、運転免許証などを提示いただくと、プレ印字機能により、書類に住所等が自動的に印字され、お客さまは自署を要する書類に名前を記入するだけで手続きが完了するようになりました。こうした BPR により、営業事務からは 133 名分の事務削減となり、資産運用相談を受ける人員を 53 名増員、融資事務から渉外担当者へ 48 名を配置できました。

BPR の取組みにより、お客さま負担の軽減と事務量の削減が可能となり、お客さま本位のコンサルティング営業により多くの時間を振り向けられるようになりました。

### RPA（ロボティクス・プロセス・オートメーション）の取組み

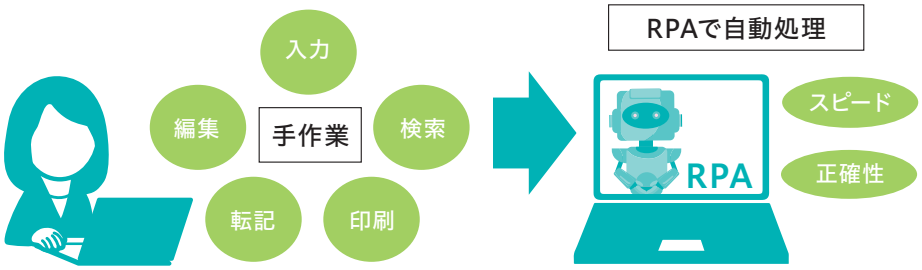
銀行とりわけ本部業務におけるパソコンを使った定例・定型作業について、RPA ソフトによる業務の自動化を図るため、2018 年 10 月から本部全体で RPA を本格導入しました。

この取組みにより、定型作業をロボットに代替させ、行員がより付加価値の高い業務に注力でき、業務スピードや正確性でも改善が図られています。なお、本部 300 業務で年間 1 万 6 千時間弱の削減効果を見込んでいます。



運転免許証

イメージ



## 「新たな付加価値の創出」や「お客さまの利便性向上」の取組み

### スマートフォンの普及に伴う顧客ニーズへの対応

**○自動家計簿 資産管理サービス「マネーフォワード for 群馬銀行」の提供**
**（マネーフォワード社が当行のお客さま向けに開発したスマートフォン・アプリの提供）**

群馬銀行の口座やクレジットカードの他、他行の口座やクレジットカード、電子マネー、マイレージやポイント等、複数口座の一括管理、毎月の食費や光熱費などの自動分類・グラフ化も可能なアプリ。

**○インターネット支店と群馬銀行アプリ**

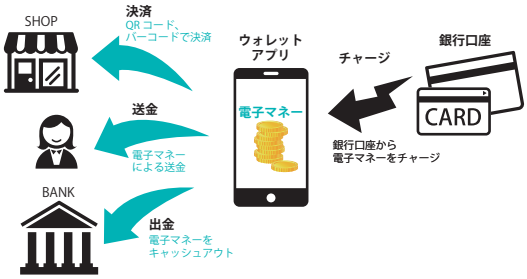
インターネット支店は群馬銀行アプリで口座開設でき、インターネット・バンキングや ATM 取引可能。
スマホで取引を確認できるアプリ「かんたん通帳」を利用可能。ATM 手数料の優遇制度も有り。

《かんたん通帳》

**○ネット決済・電子マネーへの取組み**

以下のネット決済・電子マネーに対応しています。

| | | |
|---|---|---|
| ・J-Coin Pay | ・Origami | ・Yahoo! ウォレット |
| ・LINE Pay | ・楽天 Edy | ・オッズパーク |
| ・メルペイ | ・プリン | |




### 株式会社フィンクロス・デジタルの設立

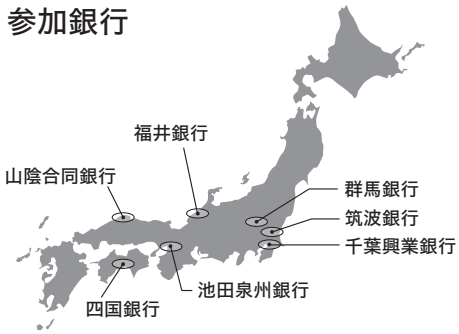
2018 年 6 月、地銀 7 行のパートナーシップにより、「株式会社フィンクロス・デジタル」を設立しました。パートナーシップは、「新しい地銀の未来を、デジタルの力で。」という共通認識をもった銀行が集まったものであり、幅広く先進的な取組みを議論する場としています。

金融機関にとって厳しい環境が継続するなか、社会経済のデジタル化の進展を、地方銀行にとってチャンスと捉え、新会社を通じて、様々なアイデアを具体化し実現することにより、地方銀行業務の高度化やお客さまサービスの飛躍的な向上をめざしています。

**（参考数値）**

| |
|---|
| 7 行合計<br>ビッグデータ |
| 普通預金<br>1,090 万口座 |
| 融資先<br>80 万先 |

**参加銀行**




〈目的〉
1.オープンイノベーション
2.低コスト運営の実現
3.データの有効活用
4.収益機会等の創出
5.新たな事業分野の展開